

高校名	① 都立東京第一学園 高校								
学年	3年	クラス	2組	出席番号	14	氏名	東京 太郎	問題番号	

1. ワーク [1]~[6]の問いに答えてください。

[1] 最も努力したこと ○ 清掃委員会のゴミ拾い企画と 広報活動	[3] 計画・実行したこと ○ 校内の公共スペースの清掃活動をイベント化 した。イベントの開催に合わせて、ポスターやHPに よって現状を周知 ・参加人数を基にクラス表彰 ・成果を校内放送でアナウンス	[5] 結果の理由 ○ 現状や成果をシェアすることで、生徒の意識が 向いたから
[2] 取り組んだ理由・目的 ○ 清掃活動や呼びかけは行っていたが、 よく学校の公共スペースにゴミが 落ちていた 校内をきれいに保つには生徒の意識を 向けさせることが必要と考えた	[4] 結果・実績 ○ 一過性にせず、月1回のイベントとして 継続していた ・清掃活動の参加人数の増加 ・ゴミの報告は減った ・一方で、日頃の清掃活動も評価が高 いという声もあがった	[6] 学んだこと・得たこと ○ 一つの視点にこだわらずに問題を考える 必要がある

2. 記述 ワークの[1]~[6]の内容を根拠として、600字以内で自己PR文を作成してください。※通常の自己PR文は裏面(A面)原稿用紙に書いてください。

物事を柔軟に考えるのが私の長所です。その力を最
も発揮したのが、委員会活動においてでした。
私が所属する環境美化委員会は、月に一回校内の公共
スペースの清掃活動を担っていました。清掃や注意喚
起に注力してもゴミが落ちていく状況は改善しな
いこと
から従来の清掃活動を見直し、生徒が美化について当
事者意識を持つ必要があると考えました。
生徒の意識を美化に向けさせるために私が提案したの
が参加者を集めて開催する校内イベントでした。その際
に重視したのは、美化に関する現状や成果を学校全体で
シェアすることです。まず、掲示用ポスターや学校HPを
通してイベント開催の告知と合わせてゴミの散らかる目
に余る惨状を紹介し、学校全体の課題として発信しまし
た。イベント当日は、クラス対抗でゴミの収集量に基づ
いて月間表彰を行い、実施後は表彰結果や清掃の成果を
アナウンスしました。その結果、清掃活動への参加者は増加し落ちていたゴミも減りました。
この経験を通して、一つの視点にこだわらずに解
決策を模索することの重要性を学びました。今後もこの
ような困難に対しても諦めずに挑戦を続け、目標を達成
できるように努めていきます。

- <添削欄>
- ① 高校名は「東京都立東京第一学園 高等学校」と正式名称で記入します
 - ② ×「考える」→「考えられる」「ら」抜き言葉に注意します。
 - ③ 1文が長くなるので、ここで文を切ります。
 - ④ もともと日本語にある語句の200字カタカナ表記は望ましくありません。×「ゴミ」→「ごみ」
 - ⑤ 読点「、」を打ちます。
 - ⑥ 1文の長さは、40~60字以内におさめるようにします。1文で1つのことを書くつもりでなるべく簡潔にまとめましょう
 - ⑦ ×誤字「つる」→「募る」
 - ⑧ カタカナ語の多用は避けます。文章の質を低めることになるので適切な日本語を用いましょう。
 - ⑨ 略語は使いません。×「HP」→「ホームページ」
また、アルファベットの太文字は1マスに1字を入れます。
 - ⑩ ~線部
主観的(自分だけのもの見方)な表現になるので、避けましょう。
 - ⑪ 「しかし」は逆接のときに使います。ここでは「また」「さらに」など順接の接続詞を用いましょう。
 - ⑫ ここから結論(まとめの段落)に入り600字です。改行して1マス空けてから書き出します。

【ワーク欄】

- ・記述内容を添削・評価するための指標となります。
- ・評価・添削の対象は記述欄の文章ですので、この欄内の記入内容自体は評価の対象ではありません。
- ・設問文からの逸脱、空欄、また誤字・脱字など表記上の誤りに対する指摘を行います。

【記述欄(左) / 添削欄(右)】

- ・記述欄にて、評価欄の評価項目に基づいて内容・表記両面の誤りを指摘・修正します。
- ・添削欄にて、記述欄の修正内容に関する解説をします。
- ・ワークを反映した箇所に関して、指摘すべき点があれば修正と解説を行います。

【所感欄】

- ・文章全体における改善点や今後の復習方法についてアドバイスします。
- ・ワークの内容に応じて文章の改善点や復習方法を提示します。内容を構成する要素に課題があれば、該当するワークに立ち戻り、再考・復習を促します。

構成 段落	<p>文章全体を適切に構成できている 文章全体の構成がよい 文章全体の構成が不十分である</p>	<p>●自己PRの明確さ ●自己分析 ●記述の具体性 ●意欲の4つの観点から、ワークを根拠に説得力のある自己PR文を記述しているかを評価します(①~③は、ワークの内容を記述に反映していることを「b」以上の評価を得るための前提としています)。</p>
表記 総合評価	<p>文章(丁寧さ・大きさ・連さ)適切に書かれている 文章(丁寧さ・大きさ・連さ)やや読みにくい 文章(丁寧さ・大きさ・連さ)読みにくい</p>	<p>●自己PRの明確さ a ワークの内容を基に、明確に示している b ワークの内容を基に、おおむね明確に示している c 明確でない・ワークの内容を基に書けていない</p> <p>●自己分析 a ワークの内容を基に、十分に分析できている b ワークの内容を基に、おおむね分析できている c 分析できていない・ワークの内容を基に書けていない</p> <p>●記述の具体性 a ワークの内容を基に、具体的に記述できている b ワークの内容を基に、おおむね具体的に記述できている c 記述が具体的にない・抽象的である・ワークの内容を基に書けていない</p> <p>●意欲 a 示すことができている b おおむね示すことができている c 示すことができていない</p> <p>※「2. 記述」の内容を評価・添削の対象としています。</p>

【評価欄】

「内容」：①自己PRの明確さ、②自己分析、③記述の具体性、④意欲の4つの観点から、ワークを根拠に説得力のある自己PR文を記述しているかを評価します(①~③は、ワークの内容を記述に反映していることを「b」以上の評価を得るための前提としています)。

「字数」：600字以内という制限字数で、記述状況の評価します。

「表記」・「構成・段落」：評価基準は見本の通りです。

字数	<p>a 91~100% b 81~90% c 71~80% d 61~70% e 61%未満 / 字数オーバー</p>
<所感>	<p>ワーク欄[1]~[6]の内容を基に、具体的に記述することができています。注意すべき点は、⑫で指摘した通りこの答案でアピールする内容をワーク欄で自分の考えを十分にまとめておくべきでしょう。また、⑬で指摘したように「いかに課題を解決してきたか」を示すことで、あなたの長所をより強くアピールすることができます。この点を意識して、表現を工夫しましょう。</p>